

真福寺の大カヤ



県指定天然記念物第17号

小野の八幡橋下流東側の山すそに曹洞宗金沢山真福寺があります。真福寺の大カヤは昭和三十四年二月九日に県の天然記念物として指定されました。真福寺の参道を登りきると右側にあります。カヤの実は美味でそのまま煎って食用とする他、昔はかや飴の材料として利用されました。また、十二指腸虫の駆除に効くといわれ、近在はもとより、遠方からもこのカヤの実を拾いに多くの人が訪れましたが、今では、昔をなつかしむ方が時々訪れるだけです。

今年も多くの実を付け、九月半ばから十月にかけて風の吹いた翌日など、あたり一面に実が落ちます。

樹高 十六・三メートル
根回り 七・八メートル

ふるさとの文化財散歩

今月は実りの秋にふさわしい
一本の木を訪ねます。

上大幡のナシ



県指定天然記念物第27号

大幡の安田五兵衛さん宅にあるナシの木は昭和三十五年十一月七日に県の天然記念物として指定されました。アオナシの台木としてサビナシを接ぎ木したのですが、一株に二種類の実を付ける奇木でこのように大木となるのも貴重です。

安田家は代々名主を勤め、家は比較的大型の幕末の民家で母屋の大戸の横木に文化九年(一八一二)七月の代官所からの※制札が打たれており、市指定天然記念物の「上大幡の八房の梅」と共に代々大切にされてきました。

二種類のナシの実は、市販のものとは比べると堅く味がしまっており、原種の味がすることです。今年には異常気象のためか実の付きが例年に比べ少ないようです。

樹高 十六・三メートル
根回り 七・八メートル

※禁止事項を書いた立札

郷土ゆかりの画家

藤井霞郷の

掛け図が寄贈されました

前教育長内藤盈成さん(中央二丁目)より藤井霞郷作の四季の掛け図十一幅が市へ寄贈されました。



藤井霞郷は、明治三十一年六月二十七日に東京都港区で生まれ、日本画家の川合玉堂に師事し、大正十三年の第五回帝国美術院展覧会(帝展)に甲州の山村の情趣を描いた「冬の日」が入選し、以後、数回にわたり帝展の入選候補となり、注目を集めました。

その後、妻の実家がある小形山に住み、静養のかたわら絵を描いていましたが、昭和二十四年二月十一日に五十一歳で没し、小形山の富春寺に眠っています。市の所有の作品には、文化会館の「十二橋」、「里の秋」、禾生地域コミュニティセンターの「小径の秋」などがあります。

展示資料を
ご提供ください

尾県郷土資料館では展示資料の充実のため次の物を探しています。皆様のご協力をお願いします。

○昭和21年頃の仮綴じ教科書、明治・大正・昭和初期の教科書、文具及び玩具など。

提供・問合せ先 尾県郷土資料館
(開館日は火・木・土・日曜日及び祝日)

☎(45)0675

または教育委員会社会教育課